

価格.com、2016年「夏のボーナス」に関する調査結果を発表

平均推定支給額は60.9万円、昨年比0.7万円減

大企業はマイナス、中小企業は上昇傾向

使い道は引き続き「貯金」がトップ。「旅行」「投資」の消費金額は3割減
五輪需要が期待されるテレビ・レコーダー、購入予定は昨年を下回る
～一定の消費意欲は見られるが、大きな支出は控えめ傾向？～

カカクコムが運営する購買支援サイト「価格.com(カカドットコム)」：<http://kakaku.com/>」では、2016年の「夏のボーナス」に関するアンケート調査を実施しました。結果を一部抜粋してお届けします。

【結果ダイジェスト】

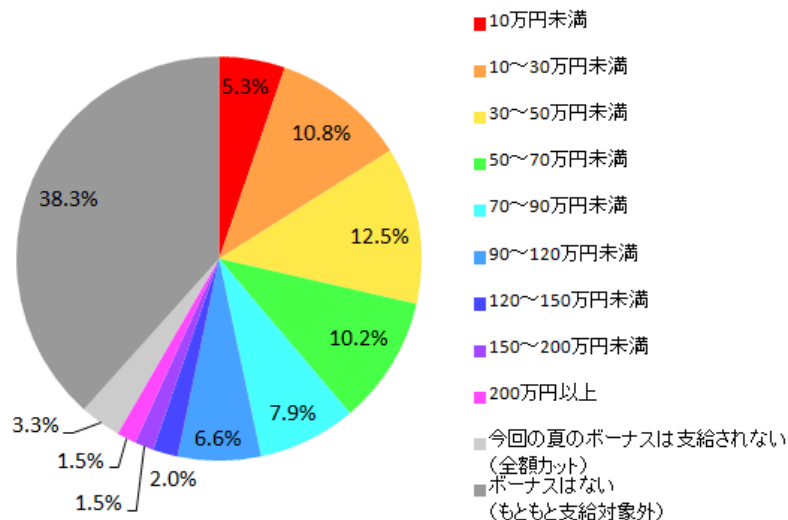
- 推定支給額：平均60.9万円(昨年比0.7万円減)。20代を除き、全体で減少
- 業種別：「金融業」が2期連続で大きくダウン。「医療業」は2期連続で増加
- 勤務先の規模別：大企業は減少。中小企業は全体的に上昇傾向

※従業員300人以上の企業を大企業、従業員300人未満の企業を中小企業としています。

- 自由に使える金額：「自由に使える」割合は昨年より増加も、「10万円以上」(44.2%)が減少傾向
- ボーナスの使い道と平均消費金額：使い道トップは引き続き「貯金」207,429円。
金融商品の「購入」「補填」や「旅行・外出」などの大きな支出は各3割の金額減少
- 夏のボーナスで購入したいもの：「洋服・ファッション関連」(15.6%)が今年もトップ。
次いで「カー用品」(11.7%)、「ノートパソコン」(10.8%)が好調

夏のボーナス推定支給額：60.9万円。昨年夏を0.7万円下回る

2016年夏のボーナス推定支給額は全体平均で60.9万円。昨年夏の61.6万円を0.7万円(1.1%)下回る結果となりました。5期ぶりに減少傾向となった昨年冬の60.6万円と比べるとわずかにプラスですが、この一年を通して見るとほぼ横ばいといったところです。性別・年代別に見ても、20代を除く全ての属性で昨年夏を下回っており、昨年冬に続いてボーナス支給額は踊り場にあることがうかがえます(図1-2)。

【図1-1 2016年夏のボーナス推定支給額(全体)】

【図 1-2 夏のボーナス推定平均支給額 性別・年代別（税込金額）】

		2016年夏 (万円)	2015年夏 (万円)	増減 (万円)	前年比
全体平均		60.9	61.6	-0.7	-1.1%
性別	男性	62.2	62.5	-0.3	-0.5%
	女性	40.2	45.2	-5.0	-11.1%
年齢別	20代	41.4	34.8	6.6	19.0%
	30代	48.0	49.0	-1.0	-2.0%
	40代	61.5	62.4	-0.9	-1.4%
	50代	70.6	72.5	-1.9	-2.6%
	60歳以上	43.5	44.4	-0.9	-2.0%

業種別：「金融業」が2期連続で大きくダウン。「医療業」は2期連続で増加

業種別では、「金融業」が前年比マイナス19.6%と大幅に下げています。前年比マイナス13.4%だった昨年冬のボーナス調査時（82万円）よりもさらに低いことから、金融業のボーナスは3期連続で減少傾向となっています。いっぽう「医療業」は2期連続で増加し、業種によって明暗が分かれました。その他の業種には、大きな変化はありません（図1-3）。なお、勤務先の規模別では、大企業が軒並みダウンし、主に大企業でのボーナス支給額が下がっていることが読み取れます。逆に、中小企業は、全体的に上昇傾向であることがわかります（図1-4）。

【図 1-3 夏のボーナス推定平均支給額 業種別（税込金額）】

		2016年夏 (万円)	2015年夏 (万円)	増減 (万円)	前年比
全体平均		60.9	61.6	-0.7	-1.1%
業種別	金融業	79.8	99.3	-19.5	-19.6%
	国家・地方公務員	69.2	66.8	2.4	3.6%
	製造業	69.3	69.8	-0.5	-0.7%
	ソフトウェア・情報サービス業	59.7	59.1	0.6	1.0%
	公益法人・財団法人	58.6	60.9	-2.3	-3.8%
	医療業	60.7	53.5	7.2	13.5%
	卸売・小売業	51.3	48.2	3.1	6.4%
	サービス業	42.7	47.3	-4.6	-9.7%

【図 1-4 夏のボーナス推定平均支給額 勤務先規模別（税込金額）】

		2016年夏 (万円)	2015年夏 (万円)	増減 (万円)	前年比
全体平均		60.9	61.6	-0.7	-1.1%
勤務先規模別	50人未満	38.9	35.7	3.2	9.1%
	100人未満	45.0	44.3	0.7	1.5%
	300人未満	51.3	49.2	2.1	4.3%
	500人未満	61.1	58.9	2.2	3.8%
	1000人未満	64.5	68.1	-3.6	-5.3%
	5000人未満	77.1	81.1	-4.0	-4.9%
	5000人以上	86.0	90.4	-4.4	-4.9%

自由に使える金額：「～10万円」の割合が増加、やや改善が見られる

支給予定額のうち、必要経費として引かれる、ローン返済、生活費補填、ボーナス一括払いなどの費用を除いた、自由に使える金額について、昨年調査結果と比べると、「自由に使えない」（8.0%）の割合が1.2ポイント減少し、ボーナスを消費に回せる人の割合はやや増えているといえそうです。ところが、消費に回せる金額自体は「10万円以上」の割合が合計5.1ポイント減少しているなど、縮小傾向のようです。

使い道と平均消費金額：お金を使う意欲はあるものの、消費金額は全体で減少傾向

続いて、ボーナスの使い道とその金額を聞きました。使い道上位の顔ぶれは変わらず、トップは引き続き「貯金」（75.5%）、次いで「商品・サービスを購入する」（67.6%）となっています。昨年調査と比べると、どの使い道もお金を使う人の割合はあまり変化がないものの、金額ベースではほとんどが減少しています。特に、「金融商品（投資信託、株式等）の購入・外貨預金など」「旅行・外出をする（国外）」「金融商品（投資信託、株式等）の補填」の3点については、約3割減と大きく減っており、特に大きな金額の支出については、慎重さがうかがえる結果となりました。

【図2 夏のボーナス平均消費金額（複数回答可）】

ボーナス消費目的	調査時期	この目的に お金を使う人の 平均消費金額	平均消費金額の 前年比	この目的に お金を 使う人の割合	お金を 使う人の割合の 増減
貯金	2016年夏	207,429円	5.9%	75.5%	5.5
	2015年夏	195,874円		70.0%	
商品・サービスを購入する	2016年夏	70,899円	-3.5%	67.6%	2.0
	2015年夏	73,508円		65.6%	
旅行・外出をする(国内)	2016年夏	57,058円	-9.3%	44.2%	0.4
	2015年夏	62,906円		43.8%	
ローン返済	2016年夏	167,261円	-10.9%	35.9%	-0.9
	2015年夏	187,677円		36.8%	
子どもの教育費	2016年夏	132,324円	-9.1%	31.0%	-0.5
	2015年夏	145,573円		31.5%	
金融商品(投資信託、 株式等)の購入・外貨預金)	2016年夏	118,026円	-29.1%	14.3%	-1.5
	2015年夏	166,402円		15.8%	
旅行・外出をする(国外)	2016年夏	118,098円	-26.0%	12.3%	2.2
	2015年夏	159,586円		10.1%	
金融商品(投資信託、 株式等)の補填	2016年夏	101,627円	-28.6%	9.5%	0.1
	2015年夏	142,357円		9.4%	
新規ローンを組む	2016年夏	95,268円	7.2%	4.3%	1.5
	2015年夏	88,878円		2.8%	

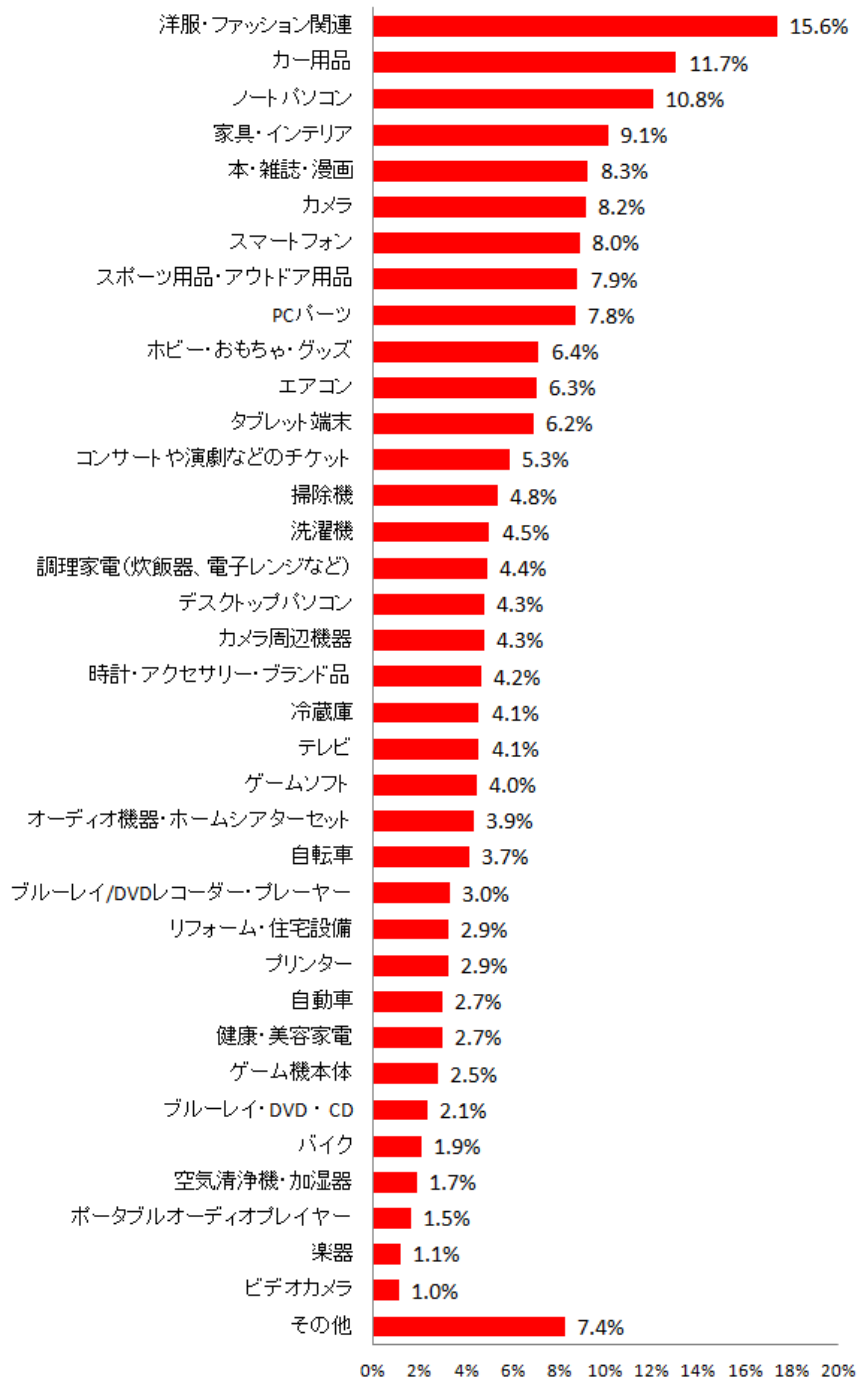
※平均消費金額は、「お金を使う予定はない」と答えた回答者数を除いて算出しています。

ボーナスで購入する商品：「洋服・ファッション関連」（15.6%）、「カー用品」（11.7%）、 「ノートパソコン」（10.8%）に需要が集まる

ボーナスの使い道で「商品・サービスを購入する」を選んだ人に、具体的に何を購入予定か聞きました。例年通り「洋服・ファッション関連」（15.6%）がトップですが、今年は他の商品も伸ばしています。なかでも、今回から項目に加えた「カー用品」や、昨年も上位だった「ノートパソコン」（昨年比+2.8ポイント）は共に1割以上の票を得ており、購入意欲の高さを感じます。

逆に、今夏のオリンピック需要が見込まれる「ブルーレイ/DVDレコーダー・プレーヤー」（昨年比-2.7ポイント）や「テレビ」（昨年比-1.8ポイント）は昨年比マイナスとなっており、今年のボーナス商戦では厳しい戦いとなりそうです。

【図3 今夏のボーナスで購入する商品（ボーナス支給者全体）】



昨年のグラフはこちら

<http://kakaku.com/research/report/085/p02.html#mds08>

【まとめ】

今回の調査におけるボーナス推定支給額は60.9万円で、昨年夏と比較すると0.7万円（1.1%）のマイナス。昨冬の推定支給額と比較すると0.3万円（1.0%）のプラスではありますが、この一年を通して見るとほぼ横ばいで推移していると言えそうです。ただし、企業規模別に見ると、特に大企業でのマイナスが目立つ結果となりました。昨年2015年は、アベノミクスの影響などから大企業の賃金がアップした結果、主に大企業でのボーナス増加が目立ちましたが、今年はその反動でややマイナス。逆に、昨年時点では渋かった中小企業の賃金が、若干上

がりつつあり、その影響でボーナス支給額も上昇に転じているものと思われます。ただ、全体として見ると、金額ベースでは昨年に比べややマイナスという結果になりました。

その伸び悩みの傾向はボーナスの使い道にも表れています。いずれの使い道も割合自体はさほど変わらず、ボーナスを消費に回していこうという意欲は感じられるものの、金額ベースでは、投資や旅行などの大きな買い物について減少が見られる結果となりました。比較的支給額の大きい大企業のボーナスが昨年より悪化している状況を受け、大きな金額の買い物や投資はやや控えられる傾向にあるようです。なお、今年はリオデジャネイロ五輪が開催されることもあって、テレビやレコーダーの買い換えが期待されていますが、これらの製品の購入希望率は前年よりマイナスとなっており、今夏のボーナス商戦にも影響を与えそうです。

【調査パネル】

調査エリア : 全国 調査対象 : 価格.comID 登録ユーザー

調査方法 : 価格.com サイトでの Web アンケート調査

回答者数 : 2,407 人 調査期間 : 2016 年 5 月 24 日～2016 年 5 月 30 日

調査実施機関 : 株式会社カカコム

※四捨五入による端数処理のため合計が 100%にならないことがあります。

▼アンケート結果、および過去の調査アーカイブはこちらのページでもご覧いただけます

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

【価格.com サイトデータ】(2016 年 3 月現在)

月間利用者数約 5,027 万人、月間ページビュー約 8 億 9,279 万 PV、累計クチコミ件数約 2,000 万件
<利用者内訳> PC : 2,460 万人 スマートフォン : 2,542 万人 フィーチャーフォン : 25 万人

データの引用・転載時のクレジット表記について

本調査結果の引用・転載の際は、必ずクレジットを明記くださいますようお願い申し上げます。

クレジット表示例

- ・「価格.com」調べ
- ・購買支援サイト「価格.com」が実施した調査によると…